

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用) T1010

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	(とのさき ようすけ) 外崎 陽介	所属・職名 物一・D2	指導教員名 (院生の場合) 太田 隆夫
Tel,Fax e-mail	Tel:075-753-3784 e-mail:tonosaki@ton.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Nonlinear dissipative wave under external forcing and feedback control		
著者名	Y. Tonosaki, T. Ohta, and V. S. Zykov		
会議名称 ・開催期間	Statphys24 自 2010年7月18日 ~ 至 2010年7月23日		
開催地 (国、市)	オーストラリア、ケアンズ(Australia, Cairns)		
出張期間	自 2010年7月17日 ~ 至 2010年7月25日		
国別参加者数	合計 500~600 人(内訳例 オーストラリア 80 人 日本 120 人、アメリカ 50 人) 他にイギリス、スペイン、ドイツ、フランス、韓国、中国など多くの国から参加。		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>私は「Nonlinear dissipative wave under external forcing and feedback control」というタイトルで、ポスター発表を行いました。内容は「非線形散逸波の強制外力による引き込み現象」と「非線形散逸波のフィードバック制御」についての研究成果です。また、これらの研究成果については既に論文としてまとめ、発表しています。</p> <p>当日の発表については、ポスター発表に割り当てられた時間が比較的短い(1時間30分)ため、それほど多くの人には聞いて貰えませんでした。発表を聞いてくれた人にはおおむね興味を持ってもらえたようでした。その中でも私と同じように非平衡開放系でのパターン形成について研究しているドイツの方と、スピングラスについて研究しているという日本の学生は、特に興味を持って聞いてくれました。ただ、英語能力の不足により、思うように自分の言いたいことを伝えられず悔しい思いをしたこともありました。</p> <p>その他にも、多数の他機関所属の研究者の方々と交流でき、良かったです。また、非常に大きな規模の国際会議だったので、様々な分野の発表を聞くことができ、今後の参考になりました。</p>			